

今年のワカサギ漁を占う

解禁まで、あと数日となりまして、今年の漁が気になるところです。去る7月8日、霞ヶ浦と北浦で試験操業を行いました。その結果にもとづき今年の漁獲量を占ってみましょう。

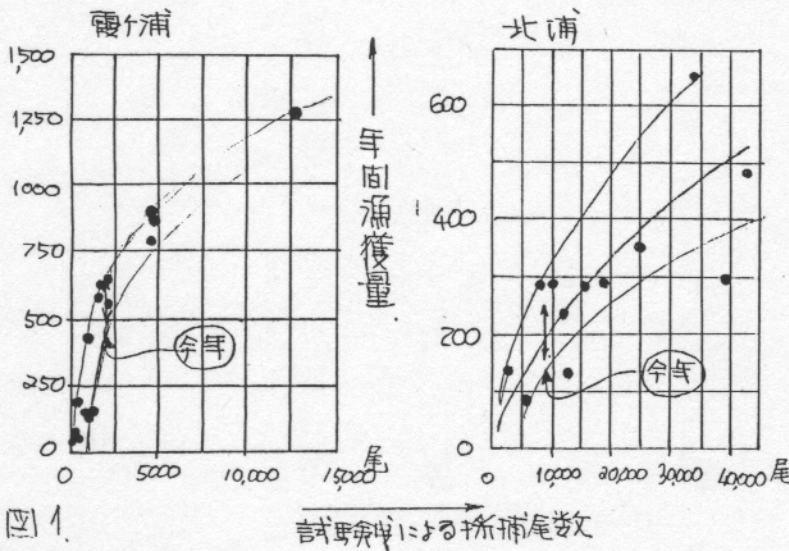
霞ヶ浦では、表1に示したように、20分当りの漁獲重量は、高浜入り、土浦入り、湖心で、それぞれ16.2、3.35、1.0kg、平均6.92kgでした。型は、昨年(2.49g)に比較して、やや大きく2.58gでしたから、尾数では、2446尾で昨年の4637尾を大きく下まわりました。過去16年の試験漁獲尾数と年間漁獲量との関係は図1に示したとおりです。矢印で示したように今年の漁獲量として5000尾の江川、白浜、水原では、20分当り13.3、13.4、24kg平均16.9kg、型は2.26g(昨年2.15g)で、

やや大型なものの尾数では、昨年の2400尾を大きく下まわって880尾となつています。試験漁獲尾数と漁獲量との関係は、図2に示したとおりで、霞ヶ浦に比較すると、変動幅が大きいのですが、同様に推定すると1501250トンが得られます。

以上のように、今年、55年あるいは、56年(霞ヶ浦46トン、北浦87トン)程ではありませんが、ここ数年の豊漁に比較す

表1 試験操業結果(昭和62年7月8日、トロール曳網)

霞ヶ浦	漁獲量(20分度)	北浦	漁獲量(20分度)
高浜入	16.20kg	江川	13.32kg
土浦入	3.56	白浜	13.40
湖心(上)	0	水原(上)	3.08
"(下)	1.0	"(下)	24.00
平均漁獲量 (上段を除く)	6.92		16.90
平均体重	2.58g		2.26g



るとやや不良といえましょう。当水産試験場では、ワカサギ資源について、産卵、ふ化、仔魚の生活などについて調査を行っていますが、今年是比较的産卵期の水温が高くワカサギ資源の動向が心配されていきました。昭和40年代に入って2月の水温と漁獲量との間に一定の関係があり、暖冬の今年は、以上の結果は、あらかじめ予想されていたところでは

現在の水質

そろそろ梅雨明けを、迎えますが、これからの水質が気になります。霞ヶ浦では、まだ透明度が高く(90センチ)、アオコは、ちらばら見られる程度でハリケイソウやらん藻のゴンホスヘリアが多くみられますが、それらに混じってアオコ同様に水の華を形成するネンジュモがみとめられます。梅雨明け後に日照りがつづくこと、この種が中心となって増えることになりそうです。また、北浦では、すでにネンジュモが優占し透明度を50センチまで下げています。酸素量は十分あり、ここ当分の間は心配ないでしょう。

